

もう WBC 野球中継放送なんか見たくもない

今回の 2026 年の WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)は 2006 年以來 3 年ごとに開かれてきた WBC の第 6 回大会に当たるものだったようですね。ご承知の通り、WBC は国際的な野球大会で、メジャーリーガーを含む世界のプロ選手が参加していますね。第 1 回大会の 2006 年は 16 カ国が参加しましたが、2023 年の第 5 回大会からは 20 カ国が参加しているそうですよ。改めて各回の決勝戦の結果を下の表でご覧になってみてください。なんとここでは、日本が野球王国アメリカを少々上回った WBC 最強国になっているんですねえ。

2006 年	第 1 回	日本	10 - 6	キューバ
2009 年	第 2 回	日本	5 - 3	韓国
2013 年	第 3 回	ドミニカ共和国	3 - 0	プエルトリコ
2017 年	第 4 回	アメリカ	8 - 0	プエルトリコ
2023 年	第 5 回	日本	3 - 2	アメリカ
2026 年	第 6 回	ベネズエラ	3 - 2	アメリカ

アメリカも今年は大リーグのスター選手をそろえて臨んだのですが、ベネズエラに屈しました。この 1 月にアメリカから「国連憲章第 2 条 4 項(武力不行使原則)への重大な侵害」と評される軍事攻撃を受けたベネズエラの選手及び国民の皆さんにとっては「清く正しい反抗なれり」とお喜びのことだと思のですが、例によって頓珍漢なトランプ(日本名:徒乱夫)大統領は、ベネズエラの優勝後 SNS に「州昇格！」と投稿し、米国の軍事作戦で大統領を拘束したベネズエラを米国の 51 番目の州にすべきだと野心をさらけ出していたようです。しかし、頓珍漢殿の妄言は別にして、アメリカ球界の幹部諸侯は、かつて大相撲本国の地位をモンゴルに奪われて動揺していた日本相撲協会幹部と全く同じような焦燥感に駆られているのではないかと思います。

日本代表も今年は大谷翔平(ロサンゼルス・ドジャース)、鈴木誠也(シカゴ・カブス)、村上宗隆(シカゴ・ホワイトソックス)、岡本和真(トロント・ブルージェイズ)、吉田正尚(ボストン・レッドソックス)、菊池雄星(ロサンゼルス・エンゼルス)、山本由伸(ロサンゼルス・ドジャース)、菅野智之(コロラド・ロッキーズ)に、コンディション不良により出場辞退した松井裕樹(サンディエゴ・パドレス)を加えた計 9 名のメジャーリーガーの参加により前回の 2023 年 WBC に次ぐ連覇を期して臨んだのですが、1 次ラウンドを 4 戦全勝で突破したものの、準々決勝でベネズエラに 5-8 で敗れて姿を消してしまいましたね。

しかし、今回の WBC で残念だったのは、まるっきりテレビ観戦ができなかったことでした。我が家とっている日経紙でも、大会初日の前日まで WBC ジャパンチームの調整ぶりを大々的に報道していただけに、開幕戦をテレビ観戦しようと楽しみにしていたのですが、テレビのどのチャンネルを見ても WBC のダの字も画面に出てきません。「はて、どうしたものやら？」と首をひねってテニスコートに出かけたところ、小田高後輩でテニス部出身の白砂賢治さんが「今年の WBC の放送権は“Netflix”が獲得してますから、普通のテレビ局放送では見えないんですよ。」と教えてくれて、その“Netflix”での放送内容をお手持ちのスマホで見せてくれました。「ありゃー、何たる仕打ちじゃ！歴代の WBC のテレビ放送をテレビ観戦してきた私たちに一言もなく。」すぐに怒り頂点に達する状況になってしまいました。

“Netflix”なんて名前も知らずにいました。アメリカの動画配信大手の「Netflix」社の略号ようですが、今回の WBC 配信権の取得に 150 億円を支払ったと言われているほどですから、アメリカ国内では受信者数も圧倒的に多くて事業基盤も整っている会社なのだと思います。しかし、日本国内には受信者も僅かしかない有料放送サービス会社に独占配信権を与えて、これまでテレビ受像機を通じて WBC に声援を送り続けてきた日本人に知らんぷりをするなんてなんたる仕打ちか？もっとも悪いのは、“Netflix”の独占放送に対して“寝たふり”をしていた WBC の運営組織じゃないのか。一体、どうなってるんじゃ WBC の運営組織は。そこで、改めて調べてみたところ、WBC アメリカの MLB (Major League Baseball: メジャーリーグベースボール) と MLB 選手会の代表者で構成される WBCI (World Baseball Classic Inc: ワールド・ベースボール・クラシック・インク) が主催しているということが分かりました。

国際的スポーツ大会の代表であるオリンピックには、国際オリンピック委員会 (IOC) 総会があり、日本にも日本オリンピック委員会 (JOC) があってオリンピックが運営されているのですが、MLB にはそのような機構がありません。参加 20 カ国すべてに成績に基づいたインセンティブが与えられるよう賞金総額は設定されているようですが、日本を含む参加国は「招待国」の扱いを受けているだけで、各国の MLB 委員が大会運営企画に参加できる仕組みになっていません。早い話が、WBC (World Baseball Classic) は、「世界の」(World)、「伝統ある／格式のある／最高峰の」(Classic) という尊い語を冠して表面的には「世界のスポーツ大会」であるように見せていながら、実質的には「アメリカのスポーツ団体 (MLB) が企画実施するスポーツ大会」の域を出ていないのだということが分かりました。これ以降、「世界のスポーツ大会でもない WBC のテレビ放送を見ることに拘っていた自分が阿保だった」と思うとともに「次回の 2029 WBC もテレビ放送されたって決して見てやるものか」と思うようになりました。もっとも、後者の“決意”については「依然として存命であったとしても」という一筆を加える必要がありますけどね。